

(様式 1)

自己評価表

【自己評価の意義・目的】

自己評価は、事業者自らが主体的にサービスの評価を行い、サービスの提供状況を見直すことにより、サービスの質の向上を図るシステムの1つです。
サービスの質の向上は、この自己評価をはじめ、事業者の取り組みを第三者の目で確認して評価を行う 第三者評価や外部評価、苦情解決制度や権利擁護制度、さらには、アンケート調査等による利用者からの声の反映、オンブズマン機能などが相まって実施されることにより達成されるものです。
この自己評価の結果を公表することにより、利用者にとっては、客観的な指標、判断材料として事業者の選択に役立つものとなります。

記入年月日	平成 19 年 7 月 21 日									
法人名	株式会社ケア21									
代表者(理事長)名	代表取締役 依田 平									
介護保険事業所番号	2	7	7	0	8	0	1	6	8	2
サービスの種類	・認知症対応型共同生活介護									
	・小規模多機能型居宅介護事業所									
	・介護予防認知症対応型共同生活介護									
	・介護予防小規模多機能型居宅介護事業所									
事業所名称	たのしい家 田辺									
事業所所在地	大阪市 東住吉区 田辺 2-11-43									
記入担当者職・氏名	(職)管理者					(氏名)宮本潤子				
連絡先電話番号	06-4399-8121									

自己評価項目構成

・理念に基づく運営

- 1.理念の共有
- 2.地域との支えあい
- 3.理念を実践するための制度の理解と活用
- 4.理念を実践するための体制
- 5.人材の育成と支援

・安心と信頼に向けた関係作り支援

- 1.相談から利用に至るまでの関係作りとその対応
- 2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

- 1.一人ひとりの把握
- 2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
- 3.多機能性を生かした柔軟な姿勢
- 4.本因果より良く暮らし続けるための地域資源との協働

・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

- 1.その人らしい暮らしの支援
- 2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

・サービスの成果に関する項目

【自己評価の実施方法】

法人代表者の責任の下に、管理者が従業者と協議しながら実施してください。

「評価項目」ごとに評価をしてください。

その判断した理由や根拠のポイントを記入してください。

少なくとも、年に1回は自己評価を実施してください。

優れている点や改善すべき点などの特記事項についても、別途、記録しておいてください。

改善すべき事項については、改善のための計画(任意様式)を作成してください。

利用者やその家族等が今後、サービスを受けようとする時の情報として、この評価結果を利用できるように、

利用申込者又はその家族に交付する重要事項説明書に添付の上、説明するとともに、事業所内の見やすい場所

に掲示するなどし、評価結果を積極的に公表してください。

評価結果及び記録等は、評価を完了した日から3年間は保存してください。

自己評価票

項目番号	項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目		
理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	近隣・地域へ外出(散歩・買物・散髪・受診)	
2	2	理念の共有と日々の取り組み	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の掲示 定期的な会議・申し送り	
3		家族や地域への理念の浸透	事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	運営推進会議開催	地域への広報活動(新聞などで)
2. 地域との支えあい					
4		隣近所とのつきあい	管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	あいさつ	地域町内会の役員になる
5	3	地域とのつきあい	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ふれあい喫茶・夏祭りに参加	
6		事業所の力を活かした地域貢献	利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議開催	1Fホールを地域に開放していきたい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	評価の意義の理解と活用	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	7/3実施指導有り、改善取り組み中	
8	5	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	意見を伺ったのみ、サービス向上に活かすまでに至っていない	運営推進会議を重ねていき、利用者家族・地域の意見・評価を聞きサービス向上に努めたい
9	6	市町村との連携	事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	報告・連絡・手続き時のみ	
10		権利擁護に関する制度の理解と活用	管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	必要性のある方がいず、活用・支援はしていない	講習等受ける機会を作り、必要な方に助言し、活用できるよう支援していきたい

項目番号	項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目		
11		虐待の防止の徹底	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	4/19社内研修 高齢者虐待防止法の意義に管理者・職員が参加	定期的な講習・勉強会等していきたい
4. 理念を実践するための体制					
12		契約に関する説明と納得	契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設課課長・管理者が同席し、十分な説明をしている	施設課課長・管理者が同席し、十分な説明をしていきたい
13		運営に関する利用者意見の反映	利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情報告書を作成し、本社・市町村に報告、職員間で確認 会議等行う	苦情報告書を作成し、本社・市町村に報告、職員間で確認 会議等行う
14	7	家族等への報告	事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	日々、面会に来られたら、報告・コミュニケーションをとっている	月刊で新聞・お便り、連絡ノート等を作っていくたい
15	8	運営に関する家族等意見の反映	家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	出来ていない	外部の苦情受付窓口の開示
16		運営に関する職員意見の反映	運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議で職員の意見を聞く	会議で職員の意見を聞く
17		柔軟な対応に向けた勤務調整	利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務の調整に努めている	職員の充足に努め、柔軟な対応が出来るよう
18	9	職員の異動等による影響への配慮	運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職を最小限に抑えるように努力している	職員が定着出来るよう努力して行きたい
5. 人材の育成と支援					
19	10	職員を育てる取り組み	運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時、新卒社内研修 社内研修年間予定組み、確保している	施設内での勉強会などをしていきたい
20	11	同業者との交流を通じた向上	運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	東住吉GH連絡会に参加、交流あり。ケア21内のGH間で会議、交流、意見交換有り。	ケア21内のGHで他GHとの交換研修を行う計画あり。
21		職員のストレス軽減に向けた取り組み	運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	意見交換の場をつくる。社内の他の施設との交流	ストレスマネジメント研修を行いたい
22		向上心を持って働き続けるための取り組み	運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	人事考課制度の導入	考課訓練と制度アップ
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
23		初期に築く本人との信頼関係	相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族様からの情報収集する事が多い		本人からの話を傾聴するように努めていきたい
24		初期に築く家族との信頼関係	相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	時間を十分確保し、傾聴している		時間を十分確保し、傾聴していきたい
25		初期対応の見極めと支援	相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他事業所のサービスを勧めることもある		本人と家族が必要なサービスを見極め、勧めていきたい
26	12	馴染みながらのサービス利用	本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	同一敷地内にあるデイサービスを利用し、段階をふみ入所されたこと有り		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援						
27	13	本人と共に過ごし支えあう関係	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	出来ることは、していただくようにしている		高齢者からたくさん学んで行きたい
28		本人を共に支えあう関係	家族との職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族様に協力していただくことあります		一緒に本人を支えていく関係を築て行きたい
29		本人と家族のよりよい関係に向けた支援	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	認知症、進行性であることを理解していただくよう努め、本人との良い関係を維持してもらえよう支援している		認知症、進行性であることを理解していただくよう努め、本人との良い関係を維持してもらえよう支援していきたい
30		馴染みの人や場との関係継続の支援	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来ていない		馴染みの人との交流、場所への外出の支援をして行きたい
31		利用者同士の関係の支援	利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	親しい方々は、見守り コミュニケーションや交流が苦手な方には、支援している		入居者同士が生き生き交流関わりあえるように支援していきたい
32		関係を断ち切らない取り組み	サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院し契約終了の方の御見舞い、退院後の相談にのる		どういう形で契約終了になるか予測できないが、いい形で関係を持ちたい
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
1. 一人ひとりの把握						
33	14	思いや意向の把握	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望、意向に添うよう努めているが、困難な場合もある		出来る限り、希望・意向の添えるよう努力していきたい。

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
34		これまでの暮らしの把握	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	インテーク、入居後も情報収集に努めている		インテーク、入居後も情報収集に努めていきたい。
35		暮らしの現状の把握	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	インテーク、入居後も情報収集に努めている		インテーク、入居後も情報収集に努めていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し						
36	15	チームでつくる利用者本位の介護計画	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者会議の開催は難しく、個別に情報収集、意見を聞いている		担当者会議、カンファレンスを積極的にやっていきたい
37	16	現状に即した介護計画の見直し	介護計画の期間に於いて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	担当者会議の開催は難しく、個別に情報収集、意見を聞いている		担当者会議、カンファレンスを積極的にやっていきたい
38		個別の記録と実践への反映	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録の記載事項、情報の共有について不十分な部分があるとおもわれる。		ケアの気づきの記録、情報の共有が確実にしていきたい
3. 多機能性を活かした柔軟な支援						
39	17	事業所の多機能性を活かした支援	本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	出来ていない		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働						
40		地域資源との協働	本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	出来ていない		地域資源を活用していきたい
41		他のサービスの活用支援	本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	医療サービス・訪問看護サービスの利用を支援している		QOL向上につながる 他サービス、社会資源の活用を支援していきたい
42		地域包括支援センターとの協働	本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議のとき協力・助言していただく		包括と交流をしていきたい
43	18	かかりつけ医の受診支援	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設ホームドクター以外の 以前からのかかりつけ医の希望あれば受診できるよう支援している		施設ホームドクター以外の 以前からのかかりつけ医の希望あれば受診できるよう支援していきたい
44		認知症の専門医等の受診支援	専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	精神科の往診を検討中		精神科の往診をうけ、職員のスキルアップもはかっていきたい

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
45		看護職との協働	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師2名が健康管理、医療活用の支援をしている		看護師2名が健康管理、医療活用の支援をつずけていきたい
46		早期退院に向けた医療機関との協働	利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時に情報提供し、病状について情報収集し、退院時期、その後の対応など相談している		病院関係者に相談、助言していただきながら、いろいろな場合にそなえて連携していきたい
47	19	重度化や終末期に向けた方針の共有	重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	全ての利用者とは、出来ていない		早い時期から、家族・主治医と方針を話合っていきたい
48		重度化や終末期に向けたチームでの支援	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	かかりつけ医に相談し、今後の変化に備えて、検討している段階		かかりつけ医と相談しチームとしてどう取り組んでいく方針をだし、万全な準備をしていきたい
49		住み替え時の協働によるダメージの防止	本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	事例なし		住み替え時には、十分な情報提供をしたい
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
1. その人らしい暮らしの支援						
(1) 一人ひとりの尊重						
50	20	プライバシーの確保の徹底	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	概ね出来ている		常に心がけ、注意をはらっていきたい
51		利用者の希望の表出や自己決定の支援	本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	自己決定や納得できるよう努めているが、困難な場合や業務の流れにおされできないこともある		自己決定や納得しながら暮らせるよう努力や工夫をし勉強していきたい
52	21	日々のその人らしい暮らし	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活を生活の基盤として生活していただいている		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、利用者の希望にそった支援をして行きたい
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援						
53		身だしなみやおしゃれの支援	その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	2ヶ月に1回訪問理容、希望者は、床屋に行く		その人らしいおしゃれが出来るよう支援したい
54	22	食事を楽しむことのできる支援	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	全員での作業は、困難。出来る方で調理の一部分 配膳 片付けをしている		一人ひとりの力を少しずつでも活かしていきたい

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
55		本人の嗜好の支援	本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒・タバコは、のまれている方なし。手作りおやつで楽しんで頂いている		バラエティーにとんだおやつ・嗜好品を提供していきたい
56		気持ちよい排泄の支援	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、気持ちよく排泄できるよう支援していきたい	一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している		排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援していきたい
57	23	入浴を楽しむことができる支援	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	共同生活上、入浴曜日は、決めている。希望があれば毎日の入浴も可能		夕食後の入浴も検討していきたい
58		安眠や休息の支援	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠習慣やその時々状況に応じて、支援している		安心して気持ちよく眠れるよう支援していきたい
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援						
59	24	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	希望・訴えがハッキリ有る方は、支援できている		全ての方に支援していけるよう努力していきたい
60		お金の所持や使うことの支援	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員が所持している方、自身で所持している方がある		一人ひとりの希望や力に応じて、やっていきたい
61	25	日常的な外出支援	事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日、散歩、外出の時間をつくっている		出来る限り多くの機会をつくってきたい
62		普段行けない場所への外出支援	一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	やり始めている段階、利用者の希望で自宅を見に行った。家族と寿司屋に行く予定		個別での外出として、やっていきたい
63		電話や手紙の支援	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	受けて側、家族の了解を得て支援している		受けて側、家族の了解を得て支援していきたい
64		家族や馴染みの人の訪問支援	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間の制限をせず、お茶、お菓子などだしている		ゆっくり面会、お話ししてもらえるスペースを確保したい
(4) 安心と安全を支える支援						
65		身体拘束をしないケアの実践	運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	6/9拘束についての研修行う		継続して研修・ミーティングしていきたい
66	26	鍵をかけないケアの実践	運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	3箇所の鍵を掛けている		安全に考慮しながら検討していきたい

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
67		利用者の安全確認	職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中利用者が居間にいること多く把握出来ている。夜間2時間おきの巡視で把握		安全確認については、常に意識・注意していきたい。
68		注意の必要な物品の保管・管理	注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	取り組みとしては特にしていないが、一律に無くす事はしていない		個別に危険を防ぐ取り組みをしていきたい
69		事故防止のための取り組み	転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	緊急時の対応、火災についての講習の予定している		一人ひとりの対応、職員のスキルアップをしていきたい
70		急変や事故発生時の備え	利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救命講習を受けている。緊急時の講習予定中		継続的に講習・勉強会などをしていきたい
71	27	災害対策	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	出来ていない		運営推進会議で働きかけていきたい
72		リスク対応に関する家族等との話し合い	一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	リスクの高い方は、ホームドクターに相談・助言をうけながら、家族と話し合いをもっている		一人ひとりに対してやって行きたい
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援						
73		体調変化の早期発見と対応	一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルチェックを行い、ホームドクターと連携をとっている。		勉強会などをしていきたい
74		服薬支援	職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用、用法や用量について資料あり、随時確認できる。薬についての知識や理解、症状の確認は、出来ていない部分がある。		一人ひとりが使用している薬、一般的によく使用される薬について、勉強会をしていきたい。
75		便秘の予防と対応	職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄・水分摂取のチェックをしている。朝の体操、散歩をしている。原因・影響の理解は、あさい。		便秘の原因や影響の勉強会をしていきたい。予防のための食事の工夫をしてきけるようにしたい
76		口腔内の清潔保持	口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	朝・眠前の2回支援している		
77	28	栄養摂取や水分確保の支援	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるように、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	業者による献立、定時の水分補給の設定で画一的である。		一人ひとりの習慣や嗜好合わせたものをしていきたい

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
78		感染症予防	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルあり、手洗い・掃除・居室隔離を実行		
79		食材の管理	食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所の清掃、調理器具、食器の洗浄・乾燥を随時している。食材は、業者に注文・調達している		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり						
(1) 居心地のよい環境づくり						
80		安心して出入りできる玄関まわりの工夫	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花を植えている。2～3階が施設部分で玄関のある1階部分の工夫は難しい		
81	29	居心地のよい共用空間づくり	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は明るくし、利用者で作成した季節感のある装飾をし、写真を飾っている。		利用者と共に季節感のある装飾を作成していきたい。
82		共用空間における一人ひとりの居場所づくり	共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有の空間は、1ヵ所で一人になれる場所は確保できない。		
83	30	居心地よく過ごせる居室の配慮	居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に使い慣れたものや好みのものを持って来ていただくよう相談している		慣れたもの、好みのもの、そのものではなく、活かしたものの工夫したもので考えていきたい
84		換気・空調の配慮	気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気は、常にしている。温度調節は、利用者の好みに合わせて行っている		職員により差があるので統一していきたい
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり						
85		身体機能を活かした安全な環境づくり	建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	エレベーター(1～3階)、手すり、車椅子用トイレ、バリアフリー、を設置。浴室の手すりが不十分である。		安全かつ自立した生活が送れるように、気づきを深め工夫をしていきたい。
86		わかる力を活かした環境づくり	一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	わからない事へもくりかえし支援していき、混乱や失敗を防いでいる		わかる力を活かしていく支援をしていきたい
87		建物の外周りや空間の活用	建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	1階ベランダで植木を植えて楽しんでいる。1階スペースでカラオケなどしている		屋上での活動をかんがえていきたい

(様式1)

自己評価票

項目番号		項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
自己 評価	外部 評価	タイトル	
サービスの成果に関する項目			
88		職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89		利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90		利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91		利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92		利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者がころへ出かけている 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93		利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94		利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95		職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどいない
96		通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項目番号		項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
自己 評価	外部 評価	タイトル	
97		運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くない
98		職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99		職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100		職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

毎日体操やレクレーションを行う

個別に入居者が行きたい所(喫茶店)に行く

毎日散歩、雨の日はカラオケ等、又大正琴に合わせ、歌を歌い、敬老会等に発表する

家族からの苦情、事故は真摯に受け止め、職員で検証し、同じ事が起こらないようにする